

リンゴ加工品の機能性表示食品開発

成果の特徴

- 保存試験後の加工品や階級毎の生果中の機能性成分プロシアニジン量を測定することで、一日摂取目安量を決定し、機能性表示食品の届出を行うことができます。

成果の内容

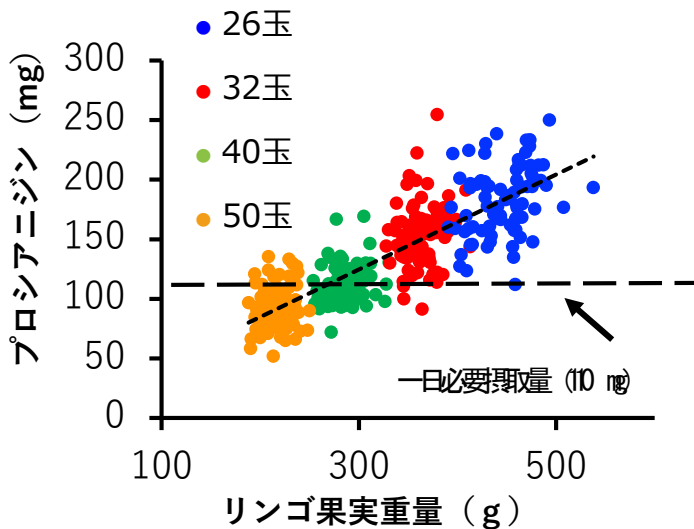


図1. リンゴの大きさ (階級) 毎のプロシアニジン量

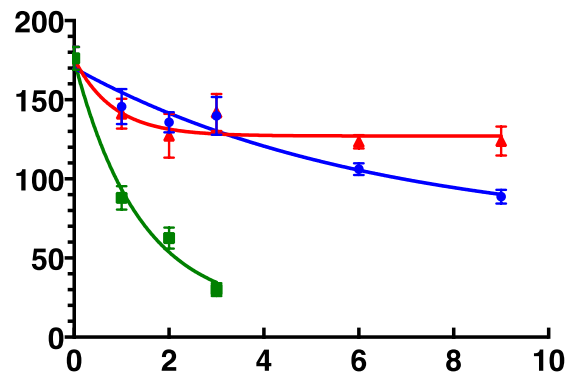


図2. ドライフルーツの保存試験結果



図3. リンゴの機能性表示食品

「プライムアップル! (ふじ)」 (消費者庁届出番号: C385)、 「プライムアップル! (王林)」 (届出番号: D399)、 「毎日アップル (ドライフルーツ)」 (届出番号: E155)、 「毎日アップル (リンゴジュース)」 (届出番号: E622)

成果の活用

機能性表示食品の開発によって、農産物や食品の高負荷価値化が期待されます。